

L16a **ヴィルト周期彗星 (81P)、マックノート彗星 (C/2009 K5) の偏光観測**

篠田知則 (彗星物理水曜ゼミ)、古荘玲子 (聖心女子大学)、渡部潤一 (国立天文台)

81P/Wild は、周期約 6.42 年の木星族彗星である。2010 年の回帰では約 9 等級まで明るくなった。C/2009 K5 (McNaught) は 2009 年に発見された新彗星で、約 8 等級まで明るくなった。力学的な新彗星と思われ、初めて太陽に近づいたと考えられる。

彗星の偏光観測は、彗星ダストの特性を探る上で非常に有効な手段である。我々は国立天文台の 50cm 社会教育用公開望遠鏡に、彗星用広視野可視偏光撮像装置 (PICO) (Ikeda, Y. et al. 2007, PASJ, 59, 1017) を取り付け、2010 年 5 月 2 日に両彗星を観測した。81P/Wild は位相角 7.7° 、C/2009 K5 (McNaught) は位相角 42.6° のデータが得られた。

発表では、この 2 つの彗星の観測結果を報告し、さらに過去に PICO を用いて観測された他の彗星と位相角毎の観測結果の比較を行う。

またコマ中の偏光度分布についても議論を行う。